大分県におけるホトトギス *Cuculus poliocephalus* とツツドリ *C. saturatus* の換羽について

中村 茂

The Molt of Little Cuckoo and Oriental Cuckoo in Oita Prefecture, Japan

Shigeru NAKAMURA

ホトトギスとツツドリは、国内では夏鳥とされていて（日本鳥類目録編集委員会 2000）、大分県においても普通の夏鳥として記録されている（日本野鳥の会大分県支部 2006）。また、標識調査では 1961 年から 1995 年の間に、それぞれ 42 羽と 147 羽の新放鳥があったが、放鳥シーズンと同じシーズン中の移動回収例はない（山階鳥類研究所 2002）。さらに、換羽や年齢査定に関する詳細な知見は乏しく、Kuroda（1965）や山階（1941）にわずかな情報が記載されているのみである。そこで、今回大分県内で、それぞれ 1 個体のホトトギス保護個体の標識放鳥と、ツツドリの死体拾得の機会があり、それらの換羽について若干の知見を得たので報告する。

ホトトギスの保護は 2008 年 8 月 20 日に、ツツドリの拾得は同年 8 月 22 日に、同じ大分県豊後大野市犬飼町（33°4' N, 131°37' E, 標高 78m）であった。保護および拾得地は針広混交林に囲まれた高台にあり、周辺に食肉処理施設が建ち並んでいた。天候は、両日とも晴れであった。両個体は、ともに建造物の外壁付近で発見されたことから、窓ガラスに衝突、落下したものと推定された。ホトトギスは、保護後しばらく放心状態であったが、数時間の観察で体力的に問題ないと判断して、傷のある頭部の消毒処置を行ってから標識放鳥した。ツツドリは、発見時に腐敗が著しく進行しており、既に死後数日が経過しているものと考えられ、剖検によっても性別の確認ができなかった。

このホトトギスは、赤色型であった。山階（1941）は、雌には赤色型があると記載していることから、雌の可能性が高い。体羽は第 1 回冬羽以降に生じる赤色の羽毛（山階 1941）であった。また、黒色帯の幅広い幼羽が認められず（川口 1920, 山階 1941）、三列風切が換羽中で、各羽の翼先に幼羽に見られる細い汚白色の羽縁（山階 1941）がなく、尾羽に新羽と旧羽が混在しており、新羽にも羽枝のすり切れが見られた（図 1）。なお、虹彩は濁った褐色味を帯びていた。

山階（1941）はホトトギスについて、台湾での幼鳥の換羽事例として、10 月に体羽を換羽することを報告している。川口（1920）は、飼育下の幼鳥の観察で 10 月から換羽を開始して 3、4 月に終了す

キーワード：大分県、ホトトギス、ツツドリ、換羽。

Key words: Oita Prefecture, Little Cuckoo, Oriental Cuckoo, Molt.

るとしている．本個体は，8 月で多くの体羽を換羽していることや上記の特徴から，少なくとも第 1 回夏羽以上の齢に達しているものと推測された．

一方，拾得されたツツドリは頭部と体上面が灰色で，喉も灰色であるが，上胸に達していない．上胸に多数の横斑があり，錆色を帯びていた．山階（1941）によれば，このような羽色は雌の特徴であった．初列風切は内側から数えて第 2，7，9 羽が新羽であるほかは，退色した旧羽であった，次列風切は第 7，8 を除いて，旧羽であると思われた．三列風切は全てが旧羽で（図 2），大雨覆・中雨覆・小雨覆および小翼羽には，旧羽の混在が認められた．尾羽は中央 2 枚が伸長中（Ginn & Melville 1983 に基づく換羽スコアで 4）であるほかは，旧羽であった（図 3）．また，体羽に幼羽は認められず，伸長中の成鳥羽も見られなかった．

山階（1941）はツツドリ幼鳥の換羽について，8 月中旬より体羽の換羽に入り，越冬地で換羽を行い，春季までに第 1 回冬羽を完成して，風切および尾羽は換羽しないと記述している．Kuroda（1965）は，10 月の成鳥の雌の換羽例として，尾羽右外側より数えて第 1，2，3 羽と，左の外側より第 3 羽が換羽中（ほかは未換羽）であったこと，4 月の成鳥雄（？）の換羽例として，尾羽右外側より数えて第 5 羽が換羽脱落，左第 1，2 羽が換羽中，また 9 月の幼鳥雄の尾羽の右側 5 枚全てが換羽中である例をあげ，本種の換羽が左右対称に起こらない事例を報告している．幼鳥尾羽の換羽については，両文献の記述例に食い違いがあるものの，本個体では，体羽に黒褐色の幼羽が全く認められず，換羽中の羽毛もなく，全て灰色の成鳥羽であったこと，風切羽に新旧の羽が混在していることから，少なくとも第 1 回夏羽以上に加齢した個体であるものと推測された．

なお，両個体の計測値は，表 1 の通りである．園部・谷口（1995）は，日本国内で主に確認されるホトトギス類は，たたんだ翼の肩から腿の付け根までの両脇部分の横斑の数が種ごとに異なるので，識別には有効としている．計測したホトトギスとツツドリの下面の横斑の数はそれぞれ 7 本と 9 本，幅は 4.0 mm と 3.5 mm，斑の間隔は 6.0 mm と 5.0 mm であった（幅および間隔は，胸部中央で計測）．

本稿を執筆するにあたり，大平英明氏にはツツドリの入手に関してご尽力を，梶田学氏には，カッコウ類の年齢査定等について貴重なアドバイスをいただいたほか，関連文献のご教示をいただいた．ここに深謝する．

表 1．大分県内で保護したホトトギスと拾得したツツドリの測定値．

Table 1. Measurements of the rescued Little Cuckoo and dead Oriental Cuckoo in Oita Prefecture.

種名	推定 性別	齢	全長 (mm)	自然 翼長	尾長	露出 嘴峰長	ふ蹠長	体重 (g)
ホトトギス	♀?	Ad	249	150	129	18.4	19.2	57
ツツドリ	♀	Ad	323	190	153	20.0	19.4	100

両個体とも第 1 回夏羽以上の成鳥．

図 1 . ホトトギスの新羽と旧羽が混在する尾羽 (上左図) .

Fig. 1. Worn and fresh tail feathers on a Little Cuckoo.

図 2 . ツツドリの初列風切第 1 , 3 , 4 , 8 , 10 羽は旧羽 . 第 7 , 8 羽を除き , 旧羽であるとみられる次列風切 . 全てが旧羽の三列風切 (上右図) .

Fig. 2. Remiges of an Oriental Cuckoo. The 1st, 3rd, 4th, 8th and 10th primaries are old, as are all the tertials and the secondaries except for the 7th and 8th.

図 3 . ツツドリの中央 2 枚が伸長中の尾羽および上尾筒 , ほかは旧羽 (下図) .

Fig. 3. Tail of Oriental Cuckoo. Central tail feathers and upper tailcovers are molting.

SUMMARY

Molting data was obtained on 20 August 2008 for an injured Little Cuckoo *Cuculus poliocephalus* that was treated, banded and released; and on 22 August for a female Oriental Cuckoo *C. saturatus* that was found deceased. The data were obtained in Oita Prefecture, in the eastern part of the island of Kyushu, southwestern Japan. Both these species are summer breeders in Japan, with respectively 42 and 147 banding records from 1961 to 1995. Data on aging and molting, however, are few in number. The reddish color of the rescued Little Cuckoo indicates that this individual was most likely a female, and the lack of juvenile feathers indicates that the bird was an adult that had passed at least one winter. The tertials and body feathers were in the process of molting, and the tail contained both new and old feathers, all of which showed worn edges. The iris was dark brown. The deceased Oriental Cuckoo was too badly decomposed to determine sex, but the lack of juvenile feathers indicate that this bird was also past its first winter. The 2nd, 3rd and 7th primaries were fresh, but the remaining primaries were worn and faded. All the secondaries except for the 7th and 8th, as well as all the tertials, were also old feathers. The greater, median and lesser covers, as well as the alula, showed a mixture of new and old feathers. The two central tail feathers were in the process of growing (score 4 on the Ginn and Melville ranking), but the remaining tail feathers were old. The body feathers were not yet molting.

引用文献

- Ginn, H. B. & Melville, D. S. 1983. Molt in Birds. BTO Guide 19. British Trust of Ornithology, Tring.
- 川口孫治郎 1920. 杜鵑研究. 東京養文館, 東京.
- Kuroda, N. 1965. On the peculiar tail molting of Himalayan Cuckoo. *Annotations Zoologicae Japonenses* 38:15-153.
- 日本鳥類目録編集委員会 2000. 日本鳥類目録改訂第6版. 日本鳥学会, 帯広.
- 日本野鳥の会大分県支部 2006. おおいたの野鳥. 日本野鳥の会大分県支部, 大分.
- 園部浩一郎・谷口高司 1995. ホトトギス類4種の徹底比較. *野鳥* (579):4-5.
- 山階鳥類研究所 2002. 平成13年度環境省委託業務 鳥類アトラス - 鳥類回収記録解析報告書 (1961年~1995年). 山階鳥類研究所, 我孫子.
- 山階芳麿 1941. 日本の鳥類と其生態 第2巻. 岩波書店, 東京.

中村 茂 whinchat@goo.jp

〒870 1115 大分県大分市ひばりヶ丘 1 8 13

Shigeru Nakamura whinchat@goo.jp

1 8 13, Hibarigaoka, Oita shi, Oita, Japan 870 1115